ISSN 0285-6352

日本語と日本文学

第 31 号

〈なまめく・なまめかし〉の意味 ……小島　俊夫……(1)

延慶本『平家物語』の成親説話考（上）　……朴　恩姫……(11)
—— 怨霊譚を中心に ——

書けない小説と〈書く〉決意 ……渡部　茂樹……(23)
——志賀直哉『和解』論 ——

金史良文学に現れた白々教事件の影 ……南　富鎮……(31)
——「土城廓」・「太白山脈」・「海への歌」を中心に ——

大江健三郎の〈他者〉表象 ……趙　美京……(43)
——『青年の汚名』をめぐって ——

局面動詞について ……呉　鐘烈……(左 1)
——「～始める」と「～出す」形の副詞的修飾成分との共起関係を中心に ——

明治期の二人称代名詞「アナタ」「オマヘサン」「オマヘ」
——その諸形と性差との関わり —— ……房　極哲……(左15)

戦後期の国語教育目標における「習慣」と「態度」
をめぐる概念 ……小久保美子……(左27)

イギリス言語教育における標準英語（Standard English）
の意味内容の変遷 ……中嶋香緒里……(左39)

平成 12 年 8 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙四十枚（一万六千字）程度。ワープロ原稿の場合はフロッピーを添えて御投稿ください（原稿とフロッピーは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

〒305-8571 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学文芸・言語学系事務室内
『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、本誌の一層の充実は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただいております。御了承ください。

編集後記

本来であれば前号までが名波の担当で、本号からは国語学者大倉浩先生が担当することになっていましたが、なんと引き継ぎの頃、不運にも、名波が海外出張してしまいました。そのために、交替が了承されないままに業務を引きずってしまい、「編集後記」まで書く始末となった次第です。まあそれもよいかも知れません。本号にはOBの先輩を含めて九篇の論文が収められています。以前は六本の論文を集めるのに苦労しましたが、応募が増えてきた結果が九篇への成果ということで、その編集を担えたことはよかったというべきでしょう。私は文学の出身で、その眼から本号の文学関係論文を読ませていただきましたが、どれも主題の斬新性を始めとして興味深いものでした。私は編集業務の責任者からはずれますが、次期委員長の大倉先生は若く意欲的です。引き続き本誌の発展に貢献してくれるはずです。そのためにも関係者一同の協力をお願いしたい。

平成十二年八月二十五日印刷
平成十二年八月二十五日発行
〒305-8571 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学 文芸・言語学系内
編集・発行 筑波大学国語国文学会
代表者 池内輝雄
印刷所 佐藤印刷株式会社
☎〇二九八（五五）七六二二